

平安時代初期の行田

時代が奈良時代から平安時代へと変わっても、しばらくの間は地域の社会構造や人々の生活に大きな変化は訪れなかったようです。奈良時代から営まれている小針遺跡（小針）、築道下遺跡（野）、北大竹遺跡（藤原町）、馬場裏遺跡（桜町）、小敷田遺跡（小敷田）などの拠点的な集落は、平安時代に入ってもその規模を維持・拡大しながら継続しています。

原遺跡（渡柳）など比較的規模の大きな集落が新たに平安時代初期から営まれ始めたりもしますが、それに関連するような集落の再編成や大規模な移動は認められません。

集落を構成する建物も、伝統的な竪穴住居と、古墳時代末ごろ以降に集落に普及した堀立穴建物が、相変わらず併存しています。使われている土器も、伝統的な在産生産の素焼きの赤橙色で軟質な土師器と、ロクロ成型され窯で高温で焼かれた灰色で硬質の須恵器が、後者の比率が高くなるものの奈良時代と同様に併用されています。市域では、主に南比企窯跡

群（鳩山町）と末野窯跡群（寄居町）で製造された須恵器が使われていますが、これも奈良時代と同様で土器流通にも急激な変化は見られません。

このように平安時代初期の市域は、奈良時代の律令体制が大きく変化することなく継続し、その中でゆるやかに発展していったものと思われま

す。もちろん、局的には新しい動きも見られます。先に触れた小針遺跡は、平安時代に入ると、それまで小針クリーンセンター周辺に展開していた集落が、同センター周辺から盛徳寺北側へとその範囲を大きく拡大していったようです。「市報ぎょうだ」



北大竹遺跡の集落(平成4年撮影)

8月号で記したように、盛徳寺は平安時代初期ごろに創建された可能性が高いと思われる。同寺の創建後間もなく、その周辺に小針遺跡の集落が拡大する形で町並みが形成され、門前町が成立したものと推測されます。寺院を核とする門前町の形成は、それまでの市域には見られなかった新しい動きと言えるでしょう。

(文化財保護課 中島洋一)

こせに ちゃんが 行く! with フラベス 福祉施設編

おちむち 夢知無恥

(運営:NPO法人サイシップ)

今月紹介する福祉施設は夢知無恥だよ。ユニークな施設の名前には、「障がいがあっても誇りや夢を持って生きてほしい」という願いが込められているんだ。

この施設は、平成18年6月に開設されました。特徴は、利用者の年齢層が幅広いところ。10代から60代の方が交流を深めながら、衣料品や手芸用布の値札付けなどの仕事をしているよ。和気あいあいとした雰囲気、利用者の皆さんの笑顔が印象的でした。

また、皆さんが楽しみにしているのが、季節ごとに行われるイベントなんだって。先日は、利根川の河川敷でサンマのバーベキュー大会が行われたんだ。うらやましい! これからの季節はクリスマス会もあるらしいので、参加してみたいな。

【住所】齋条870 【電話番号】557-5888



このコーナーで紹介する施設を募集していますので、希望される場合は広報広聴課までご連絡ください。

今月の表紙

10月13日、文化庁が主催する文化芸術による子供の育成事業として、北河原小学校の児童が能楽を体験しました。

この日は、10月22日に行われる公演に先駆けて、阜風会の小島英明さんが能楽の成り立ちや能面や楽器について説明しました。児童らは、実際に能面を付けたたり太鼓をたたいたりすることで、能楽の世界を少し理解することができたようです。

市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています